

福祉協力校 活動紹介

片品中学校

片品中学校区は今年度から3年間、学童・生徒のボランティア活動普及事業（地域指定福祉協力校モデル事業）の実施地域として、群馬県社会福祉協議会より指定を受けています。指定を受けた片品中学校と片品小学校における福祉教育の活動を紹介いたします。



▲ひとり暮らし高齢者へ送られた手紙



▲車イスに乗って行われた体験の様子

【ひとり暮らし高齢者への手紙】

新型コロナウイルス対策のためひとり暮らし高齢者を体育祭への招待ができなかったため、「敬老の日」に合わせて生徒たちから心温まる手紙が送られました。

【認知症サポーター養成講座・介護体験】

12月3日、片品中学校体育館において中学二年生を対象

に、片品村地域包括支援センターと桜花苑の職員による認知症サポーター養成講座・介護体験が実施されました。

介護の仕事や認知症についての学習や、体が思うように動けなくなっても楽しめる活動体験が行われました。

体験を通して生徒たちは、介護や支援を受ける方、認知症の方の気持ちを知り、相手の自尊心を傷つけないことの大切さを学びました。

片品小学校

【花いっぱい運動】

この活動は、環境美化委員会を中心に「人権の花」運動と併せて実施されました。児童たちは昨年度の活動の振り返りを行い、今年度は花を種から育て、片品村の施設や老人施設等に届ける目標を立て、栽培活動が行われました。

8月と11月に役場や保育園、桜花苑などの村内施設に児童達が育てた花が贈られました。



▲花いっぱい運動(桜花苑)

【車イス・シニア体験】

11月15日、群馬パース病院より介護士4名が来校し、4年生から6年生の児童を対象に車イス体験とシニア体験が実施されました。

介護士から、足が不自由な方や高齢者はどんなことが大変なのか、どういう支援をすればよいか等の説明を受けた後、それぞれの体験が行われました。



▲車イス・シニア体験の様子